

令和7年度【大田区立東調布第一小学校・国語科授業改善推進プラン】

◎ 小学校国語科における分析

学習効果測定の結果の分析	4年	5年	6年
	どの領域においても、目標値・区平均正答率・全国平均正答率を上回っている。特に、「書くこと」と「読むこと」の領域の正答率が、目標値を大きく上回っている上に、正答率も高い。一方、「話すこと・聞くこと」の領域における、「話し手が伝えたいことの中心を捉える」問題において、目標値、全国正答率を下回っているため、指導の充実が必要である。	どの領域においても、目標値・区平均・全国平均正答率を上回っている。特に「我が国の言語に関する事項」と「読むこと」の領域の正答率が、目標値を大きく上回っている上に、正答率も高い。また、前年度課題に挙がっていた「情報の扱いに関する事項」は、目標値・前年度平均正答率を上回っている。	ほとんどの領域において、目標値・区平均・全国平均正答率を上回っている。特に「話すこと・聞くこと」の正答率がとても高い。一方、「我が国の言語文化に関する事項」は目標値・区平均正答率・全国平均正答率を下回っているため、指導の充実が必要である。

分析観点別結果の	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	どの学年も、目標値及び区の平均、全国の平均を上回っている。	どの学年も、目標値及び区の平均、全国の平均を大きく上回っている。5年生では、特に大きく上回っている。	

◎ 国語科の今回の調査における課題

- ・領域別分析・観点別に結果を分析した結果、ほとんどの領域・観点で、どの学年も校内平均正答率が、目標値・区平均・全国平均を上回っていた。このことから、全学年において、国語科の学力が定着しているといえる。
- ・言語についての知識・技能は、学年の配当漢字の「読むこと」は正答率が高いが、「書くこと」は「読むこと」の正答率と大きく差が開いているため改善の余地がある。また、敬語や修飾語など国文法の活用に課題が見られる。

◎ 国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取組における成果と課題◆

- ◇ICT機器の活用により得られる様々な情報から必要な部分を取り出したり、話や文章に含まれている情報を整理したりして、情報と情報との関係について理解を深める活動を計画的に行ってきた。得た情報を活用する力は身に付いてきている。
- ◆国文法の正答率が低いため、文法上の基礎的な理解の定着も課題といえる。

◎ 国語科の具体的改善策

授業における具体的な手立て

- 話すこと・聞くことについては、各学年のねらいを明確にし、プレゼンテーションソフトなどを用いて資料を提示しながら全体に発表する活動や、少人数での話し合い活動などを通して、指導していく。また、大事なところを聞き落とさないようにするために、相手の目を見て話を聞いたりメモを取ったりするなど、日頃の話の聞き方の指導にも重きを置く。
- 書くことについては、各自の調べた資料から読み取った事実と感想や意見を区別して書き表す活動を丁寧に行い、視点を明確にしながら相互に書いたものを読み合う活動や推敲する時間を設定し、文章がより良いものになるように指導を工夫する。
- 読むことについては、登場人物の心情や様子を表す叙述に線を引かせたり、気持ちの変化に焦点を当てて叙述を基に読み取らせたりする活動を計画的に取り入れる。
- 言語についての知識・技能については、語句・語彙を広げていくため、読書の推進をしていく。また、漢字の定着を図るため、自分の考えや気付いたことを文章で表現する学習を通して、学習した言葉や漢字を活用する機会を増やす。また、主語・述語・修飾語や和語・漢語・外来語、敬語についての理解を深めるため、「書くて楽しいね」を活用したり、日々の学習の中で意識するように声掛けを行ったりしながら日常的に指導していく。